

閲覧方法推薦Ⅱタブレット・PC

この作品はシナリオ（TV&映画の台本仕様）で記述されています。しかし電子書籍の記述仕様は、シナリオの記述方式には合致しません。したがってこの作品は「シナリオⅡ電子書籍仕様」となっています。



[illegible]

加賀敬三・誘拐・身代金30億円	31
30億円融資計画案	40
家宅搜索	46
30億円・追跡	69

第一章

第一章

悲しい再会

消えた
30億

つかの間の青春

00 警察大学正門

安藤有紀を中心に五人が肩を組んで笑っている。

岩佐太司・古角勇次・小島雅之・坂本達夫。

タイトル「36年前・警察大学卒業記念」

01 東京神保町付近（夕暮）

神保町矢口書店交差点、酔った岩佐（26）の腕に、山岸志津

（22）が腕を絡ませ、足取りも軽やかに歩いている。

神保町シアター前に来る。千鳥足で岩佐の足が止まる。

ガラスケースに入れられた上映映画の広告。

神保町シアター前に来る。千鳥足で岩佐の足が止まる。

ガラスケースに入れられた上映映画の広告。

岩佐「この映画見る？ 君の名は？」

志津「山岸志津22歳。貴男の名は？」

岩佐「岩佐太郎26歳」

二人が腕を組んでシアターに入る。



1953（昭和20年映画作品）主演：岸恵子・佐田啓治

岩佐「（独白）忘却とは忘れ去ることなり。忘れ得ずして忘却を誓う
心の悲しさよ……」

青春の悲劇

02

東京ビル群（夜）
豪雨！ 遠くに稲妻が走る！

03

ビルのプレート
照明に浮かぶ「東西Holding」に激しい雨。

04

同オフィス
広いオフィス。節電で照明も暗い。社員もまばら。その中の一
人、岩佐がいる。

岩佐のデスクの電話が鳴る。

岩佐「岩佐……すぐ迎えに行くから」

05

料亭
稲妻！ 停電！ 稲妻！
加賀に志津がレイプされている。

そこへ岩佐が入って来る。

その光景を見て啞然とする。

志津が破れた下着で胸を隠し背中が丸見えの状態。

部屋の隅に膝を抱えて座り込んでいる。

その側で加賀がズボンのチャックを上げている。

加賀が気まずそうに身繕いをする。

岩佐「何てことを！」

と、胸ぐらを掴み数発殴り睨めつける。

その間志津が破れた下着のまま部屋を抜け出す。

一瞬稲妻、落雷、停電！

06 料亭の屋根（俯瞰）

叩きつける豪雨

07 同和室

電気がつく。志津がない。

08 料亭の玄関

岩佐が飛び出して来る。

料亭の前の道路

豪雨の中、岩佐が左右を見て志津を探す。

岩佐の視線の先、放心状態で歩く志津。

志津が川の欄干の前に立ち止まる。

向から男が乗る自転車の光！

その光が志津の横で止まる。

志津が橋から突然身を投げる。

それを目撃した男が自転車を放り投げて川を見る。

流れる濁流。

男が道路を渡って欄干に身を乗り出して下流を見る。

川の流れに飲み込まれて流れる志津。

男が躊躇なく川に飛び込む。

岩佐が来て志津が欄干から飛び降りた川を見る。

豪雨の闇の川。

雨に叩かれる岩佐の顔。

タイトル・1991年・平成四年四月十三日（土）

選択肢のない運命

10

木造の住宅

表札が古角勇次とある。

早苗（30）が毛布を抱え玄関に飛び込んでゆく。

11

同和室

志津が、柱に背中をもたせかける。

毛布を肩からかけブルブル震えている。

勇次（26）も毛布を肩からかける。

右往左往しながら立って震えている。

そこへ早苗が飛び込んで来る。

早苗「勇次さんどういうこと！」

勇次「理由は後でいいいますから……女性だし、身体も冷えきつてい

るし、着替えもないし……」

早苗「分かった。着替えますからあなたも着替えてらっしゃい」

勇次「でも僕に出来ることは？」

早苗「ないわよ、（きつい言葉で）着替えるから早く襖を閉めて出て
いって頂戴」

勇次「分かりましたよ……そんなにどらなくても」

早苗「何か言った？」

勇次「べつに……」

と言つて部屋を出る。

早苗が志津を着替えさせながら部屋の外に向かつて大声で叫ぶ。

早苗「勇ちゃんお風呂湧かしておいてね」

勇次の声「そんなことぐらい、分かってますよ」

早苗「お風呂の床、きれいに掃除しておくのよ」

勇次の声「うるさい！」

12 同和室

古びた木製の柱時計が午後十一時の時を告げる。

食卓に勇次と志津と早苗が座っている。

勇次はTシャツにズボン。志津は寝巻きの和服に半纏。

早苗は普段着で、三人が遠慮がちに座っている。

早苗が志津に向かって

早苗「お名前は？」

志津「山岸志津22歳です。私を助けてくださったこの方は？」

と、勇次の顔を見る。

勇次「古角勇次、歳は26、隣の小母さんは？」

早苗「隣の小母さんはないでしょう（志津の方を見て）早苗です。

川に飛び込んだ理由は聞かないは、で、ご家族は？」

志津「……」

早苗「そうですか……」

志津「（頭を畳に付けて）ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。誠

に身勝手ことを申し上げますが、このまま一晩だけお世話になり

たいのですが……」

勇次と早苗が顔を見あわせる。

勇次「勿論かまいませんよ」

志津「よろしくお願いします。押し入れでもかまいませんから」

早苗が勇次の腕を引っ張り「ちよっと」言つて襖を開けて隣室に行

13

同隣室

四畳半である。

勇次「（小声で）どうします？」

早苗「どうしますって、勇ちゃんが連れてきた人でしよう。言っときますけど、私ちゃんは（家）は駄目だよ。寝たきりのじっちゃんもいるし、夜勤明けに旦那も朝方帰ってくるし」

勇次「でも……」

早苗「何言ってるのよ馬鹿！ あんたが助けた人でしよう」
と言って襖を閉める。

14

同和室

二人がテーブルに座る。

早苗「ごめんね。気を悪くさせちゃって」

志津「いえ……」

早苗「ほんとうは、私の家に泊まっていただければいいんだけど、事情があつて無理なのよ。ですからこの勇ちゃんち（家）に泊まつて頂くしかないのよ。志津さんはこのお部屋、勇ちゃんは隣のお部屋……この人水道橋交番のお巡りさんですから」

柱時計が午前零時を告げる。

早苗「もうこんな時間。私失礼しますから後はよろしくね」

早苗がとつと部屋を出て行く。

しばらく二人はもじもじとかたまった。

突然勇次が立ち上がる。

襖を開け隣の部屋から蒲団を待ちだし敷いた。

勇次「この蒲団は昨年買ったばかりで、干していませんが、男臭

い匂いはしませ」

そう言って隣の部屋に行く。

志津の暗くて悲しい表情

15 桜絨毯の川面（回想）

岩佐の笑顔（フラッシュ） Ⅱ 瞬間画像

16 料亭

加賀のレイプ（フラッシュ）

17 欄干

身を投げる志津（フラッシュ）

志津・人生の転換

18 木造住宅街（夕方）

古色蒼然たる木製の新町住宅案内版。

30 軒ほどある

拡声器の夕焼け小焼けの曲が流れる。

案内板のある正面の道を自転車に乗った勇次が来る。

19 木造住宅

表札・古角勇次

勇次が来て自転車を止める。

部屋に灯り。勇次が首をかしげ木造の古びた門を開く。
玄関に入る。

20 同和室

早苗と志津がいる。

障子を開けるとテーブルの上に夕食が二人前並んでいる。

勇次が驚いて突っ立つ。

早苗「突っ立っていないで座りなさいよ」

勇次、上着を脱いで座りながら

勇次「どういうことですか？」

早苗「頂いたお金……いや借りたお金で夕食の支度、亭主の分まで作って貰ったよ（風呂敷包みをさして）料理たいしたもんだよ。それにあんたのぬれたて服を洗濯し、ほこりが溜まった独身臭い部屋の掃除、蒲団まで干し、助けてもらったお礼だとさ」

勇次「……」

早苗「志津さん、さっき私に話したことはつきりすのよ。いいね！」

勇次「……」

早苗が、勇次の肩を叩いて耳元で小声で“この色男”と部屋を出る。

志津「勝手なことして、申し訳ありませんでした」

勇次「帰らなくていいんですか？」

志津「……」

勇次「分かりました。お話をお聞きしましょう。お話って何です

か？」

志津「私帰る場所が無いんです。この隣の屋を貸して頂けませんか？　家賃はお支払いします。パソコンが出来ますから、就職先は自分で探します。保証人は早苗さんにお願しました」

勇次「……私は独身ですよ……」

志津「お願いします」

両手について深々頭を下げる。

勇次困惑の表情。

勇次「僕は独身ですよ……」

志津「おまわりさんでしよう」

勇次「独身ですよ」

志津「私はいません」

勇次「一応お聞きしますが、昨夜お聞きしましたが年齢は22歳お名前は山岸志津さん。間違いありませんか？」

志津「間違いありません」

勇次「……そうですか……」

志津「田舎は・両親・兄弟などお聞きならないのですか？」

勇次「お聞きしても意味がありません。私と志津さんはただ偶然な

出合いですから」

志津……思わず両手で顔を覆う。

21

料亭（回想）

加賀からレイプされている光景（フラッシュ）Ⅱ（瞬間画像）

22

木造住宅街

外灯の光が路上に落ちた枯葉を照らし出す。

一陣の風にその落ち葉が舞う。

23

同勇次の部屋

勇次と志津、その前に早苗と辰三。

志津がうなだれている。

早苗「（志津に）私はつわりがひどくその上流産してしまって、この人に申し訳なくって……」

辰三「いいってことよ。神様のご機嫌がわるかっただけさ。志津さんに授かった命だ。生むしかねえだろう。勇次も上さんもこの俺も、縁があって皆んなここにいます。子供の父親の名前なんて話し

た。く。ない。なら。言。わ。な。く。て。も。い。い。正。真。正。銘。の。志。津。さ。ん。の。子。供。だ。か。ら。い。ま。さ。ら。聞。い。て。も。意。味。ね。え。だ。ろ。う。」

早苗「旦那の言うとうり、まず赤ちゃんを無事生むことだけを考えましょう」

辰三「早苗の言うとうりだ。ガキの一人や二人何とでもなるさ」
勇次「志津さんさえよければ、僕が父親になります」

隠岐の島・網元・古角勇次の悲劇

24 飛行する旅客機

25 隠岐の島の航空写真

26 隠岐空港

正面を出てくる隠岐（70）勇次（30）志津（26）恵子（4）恵子に抱っこされて裕子（乳児）

27

海
連絡船が海を進む。

28

知夫埠頭

知夫埠頭の出口、隠岐空港で降りた五人が出て来る。
大貫（60）男（ワゴン車の運転手）が迎える。

29

隠岐家網元の屋敷

古色蒼然とした屋敷。

その門前にワゴン車が停車。

隠岐一行が下車。

30

玄関

畳に置かれた衝立に魚の家紋。

31

同大広間

大きな床の間の背を中心に隠岐源蔵、その横に勇次、その横に志津に抱かれて祐子、その横に、緊張して座る恵子、その他四

十人が記念撮影。

年老いた写真屋、三脚の上のカメラを手に持った大きな業務用ストロボ。

写真屋「よい：：はい！」

フラッシュの閃光と共に拳銃音！

32 交番

勇次が、ロツカーを背に足を投げ出し、右手に拳銃を握りその手がだらり床に：：

右側頭部のこめかみから血が流れて死んでいる。

タイトル… 19913年五月十三日

三十年後・古角勇次の親友・岩佐太司

33 高層ビル

プレー「東西Holding」

夕日がビルの向こうに沈んでゆく。

タイトル…三十年年後

34

同社長室

社長加賀竜二（80）デスクに座り、その側に岩佐太司（60）が立っている。

書棚には一個の花瓶に薔薇。

六人掛けの応接セットの側、豪華な常緑樹。

その横、台車に取り替えた花瓶と花壇が積んである。

その側に緊張して立っている並木伸子（45）

加賀「（伸子に）何時も花を有り難う」

伸子「（頭を下げて）並木花店をご利用頂き有り難うございます」

加賀「参考のために、君に私的で失礼なことをお聞きしますが？」

伸子「ご質問の内容が、私の許容範囲ないであればお答えさせて頂きます」

加賀「お名前は？」

伸子「並木伸子です。家族はバツ一のシングルマザー、子供は女の子一人。今年大学卒業予定です」

加賀「さしつかへなければ離婚？　ですか」

伸子「そうです……しかも……」

加賀「しかも、何ですか？」

伸子「……」

加賀「失礼！　忘れてください。ご苦勞さんでした」

伸子「（チラリと岩佐の顔見て）浮氣の相手が私の無二の親友でした

……でも社長さん何故こんな質問を？」

加賀「いや、私の家内も後妻です。私も80です。終わりのけじめを

つけようと思ひまして参考までに、失礼を忘れて下さい。今後と

もお花を宜しく願いますよ」

伸子「失礼します」

伸子が社長に頭をさげ、台車を押して出る。

加賀が立っている岩佐に「まあ座ってくれ」

と言つて自らソファ―に座る。

岩佐「失礼します」

と軽く頭をさげ岩佐も座る」

加賀が腕を組み目をつむつて沈黙。

岩佐は一見神妙そうに膝に両手を乗せ、加賀の発言を待っている

る。しばし沈黙……

加賀「（唐突に）今度の役員会で俺が会長になる」

岩佐「それはお目出とうございます」

加賀「何かいう事ないのか？」

岩佐「……」

加賀「もう充分代償は払ったつもりだが」

岩佐「そうですか……」

35 豪雨の料亭（30年前の回想）

加賀が志津をレイプしている（フラッシュ）Ⅱ瞬間画像

36 豪雨の神田川（30年前の回想）

豪雨の中志津が橋上より身を投げる（フラッシュ）

37 同社長室

岩佐の膝の上の両手の拳が震えている。

加賀「……もう充分償ったつまりだが？」

岩佐「……私は未だに独身です……」

加賀「忘れられないということか？……」

岩佐「……社長におまかせします……」

そう言つて岩佐が軽く頭をさげ出て行く。

加賀「（独白）腐れ縁……仕方ないか……」

38 銀座

服部時計店ビル、時計午後九時。

39 居酒屋「酒処」

満席。

カウンターに岩佐と伸子が並んで呑んでいる。

伸子ほろ酔い気分。

伸子「今日の加賀社長の話、貴男向けのお話よねえ？ 過去に何が

あったか野暮の事は聞かないけど、別れた元旦那の話はほんと
うよ」

岩佐「僕に向けての話？」

伸子「私たち、何となく過去を避けてきたでしょう。社長さんの問

いかけは太司さに話す千載一遇のチャンスだったのよ」

岩佐「チャンス？」

伸子「互いに過去の話は避けてきたでしょう。お花が取り持つ縁でもう五年よ。太司さん伸子のこと嫌い？」

岩佐「もうちょっと待っててくれないか？」

伸子「（耳元で）何日まで待つのか？」

岩佐「……」

伸子「じゃあ待ち時間短縮のために協力してあげる」

白いハンカチを広げて10mm程度の黒い電子部品のようなものを出す

伸子「加賀社長室の花瓶の花に、盗聴器を仕掛けたのは、太司さんですよね？ 花瓶の花を捨てるとき偶然見つけたの」

岩佐「……」

伸子「別れた元亭主に聞いたなら、ボイスレコーダーだそうです。この手の機器は今ほもっと小さくて高性能な製品があるそうよ」

岩佐「……」

伸子「これが最新式みたいよ」

と言って、直系10mm程度のチップ状のものを、財布から取り出しハンカチの上にスマホと並べて置く。

伸子「この受信機は、スマホに録音出来るそうよ」

岩佐「何で君がそんな事を？」

伸子「菊田一夫名言を知ってる？」

岩佐「（知らない振りをして）何だっけ？」

伸子「君の名はの映画よ。といってもアニメの映画じゃないわよ。最初はラジオドラマで、銭湯の女湯が空になったほどの人気があつて、そのドラマを映画化した作品だそうよ。亡くなったお爺さんからよく聞かされた話しよ」

岩佐「それで君は何を言いたいわけ？」

伸子「その最初の言葉よ」

岩佐「……」

伸子「忘却とは、忘れ去ることなり。忘れ得ずして忘却を誓う、心の悲しさよ……あなた、忘れ去ることが出来ないことがあるじゃないの？ 加賀社長との間に……」

自分に言い聞かせるようにつぶやく。

岩佐「そうだよなあ」結局は自己満足かも知れない……頼まれていないものを追っている偽善者。汝傲れることなかれ……か？」

伸子「なにそれ？」

岩佐「空海だよ」

40

下町の小ビル

二階ガラスの文字

高木調査（探偵）株式会社

高木セキュリティ対策（株）

41

同事務所

窓ガラスを背にデスクが二つ並んでいる。その前に応接のテーブルが一脚、椅子がテーブルを挟んで四脚。

その前に応接ソファが置かれてある。

如何にも貧しい探偵屋の事務所

応接のテーブルに高木（50）と綾子（45）が、テーブルをはさん

で伸子がいる。

伸子「日曜日に綾子ごめん」

綾子「そんなことないわよ。迷惑かけた恩義があるからごめん！

もう終わった話ね」

伸子「そうよ！ お二人の養育費完済でお礼を言うのは私の方よ。それより美佳ちゃんどうしてんの？」

綾子「それが大変なの、伸子よく一人で育てたよねえ」

高木「何で仕事の話で来たのに、子育ての話なんですか？」

綾子「あなた分かってないわねえ」

伸子「子供がいる女同士の挨拶は、まず子供の話でしょう」

綾子「理解のない旦那を持つと大変なよう？（伸子の顔見て）あ

らごめんさい」

伸子「この人、昔からそうなのよ」

そう言って二人が高木の顔を見る。

高木「（気まずい顔で）元奥様、本題に入りませんか」

伸子「加賀竜二会長の写真をテーブルに置く。」

伸子「この人の過去、30年前の頃の状況を調査して欲しいの」

綾子「30年前？」

そう言って写真を取り上げ見る。

緊張した表情……

その写真を高木に手渡した。

加賀竜二の写真である。

高木がその写真を見てテーブルに置いた。

高木「30年前の、具体的には何をお知りになりたいんでしょうか？」

伸子「犯罪があればその内容とか、会社の本人に関する噂とか」

高木が綾子の袖を引き「ちょっと失礼」

と言いながら席をはずし、衝立の影に消える。

伸子が室内を見回す。

狭いが小綺麗に整理整頓されている事務室。

二人が現れて座る。

高木「この方は、東西Holdingの社長加賀竜二さんですね。本来探偵

業は調査対象者の秘密は明かせないのですが、この方は別の依頼人の対象者になっています。このお話をするのも特例で、第三者に漏れると探偵業務免許取り消しの恐れもあります。しかし調査内容が全く違っていきますので、特例でお引き受けします。30年前の過去というと、郷里に出向く場合があります。もうし訳ありませんが、その際の費用は……」

伸子「別途ですね（封書を出して）20万あります。不足でしたら一報下さい。不明なら不明で結構です。調査項目だけ報告してください」

岩佐「もうちょっと待っててくれないか？」
伸子の声「男っていつも同じ台詞？」

43 高級ホテル俯瞰（夕暮れ）

テロップ「軽井沢リゾートホテル。2021年令和三年五月十一日」

44 同大ホール看板

正面舞台の天上から、つり下げられている大きな横長の看板その文字。

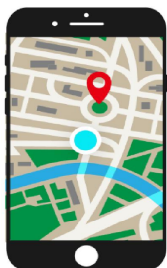
上段横長の文字「東西Holding 50周年記念パーティー」
下段横長の文字「東西Holding（株）・東西家電（株）」
東西重電（株）東西機械（株）・東西原子力（株）

加賀敬三・誘拐・身代金30億円

45 同大ホール

大勢の立食パーティーの客。

その角、岩佐がスマホを見ている。
そのスマホの画像。



スマホの位置情報の点滅が消える。

加賀が部下を伴って末席の方のテーブル客に挨拶回りをしていく。

一方主席の恰幅の客はその光景を見る。

客 A 「あちらのテーブルは？」

客 B 「東西 Holding 地方の孫請けだよ」

客 A 「なるほどねえ。パーティ券の関係の都合もあるからなあ」
加賀が丁寧な末席の客に挨拶してテーブルを移動する際、岩佐が加賀の側に寄り立ち止まって、加賀の耳元で小声で囁く。

岩佐「敬三社長のスマホの位置情報が、高崎駅周辺で消えました。敬三社長に何かアクシデントがあったと推定されます」

加賀「わかった」

46

豪邸
その俯瞰。

47

プレート「加賀敬三」

48

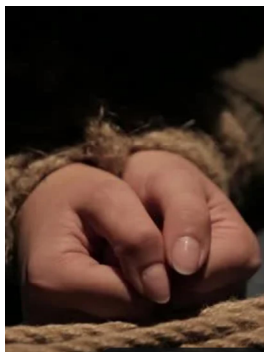
同ダイニングルーム

富子（30）が座る写真を持つ手が、小刻みに震えている。

その写真。

敬三（40）が、椅子に座わって、両手両足をロープでぐるぐる巻きにされている。

タイトル「加賀敬三、東西原子力社長・富子の婿養子」
その写真を封書の側に置いて、PCの着信メールを読む。



着信メールの内容。富子が読むが途中からは犯人の声に替わる。犯人の声「ご主人は睡眠薬で眠っています。身代金は30億円。加賀二さんに連絡して下さい。万が一警察に連絡すれば、即時拳銃で射殺します。他にも都内三カ所に爆弾を仕掛けました。警察に通報すれば加賀家に関係のない、多数の人たちも命を落とすことになります。加賀竜二さんには、そのことを伝えて下さい。今夜30億円調達の関係者を集めてください。この屋敷は、監視カメラも、PCも、TVも、固定電話も、すべてハッキングしています。警察には30億円が用意された時点で私から連絡します」

49

加賀敬三宅
庭園にガーデンライトの灯。

50

同居間

アンティークな大きな時計の振子が午後七時の時を告げている。
中央に50時のTV、その前に長いテーブル。テーブルの中央に
加賀竜二。

テーブルを挟んで右側に加賀達夫(70)加賀妙子(60)加賀富子(30)
テーブルを挟んで左側に岳京介(70)岩佐が座る。

加賀「この誘拐事件は、誘拐された本人は富子の夫敬三である。脅
迫の連絡も会社宛てではなく妻の富子宛てにきている。したがっ
て加賀家全体で対処しなければならない。それでいいか！」
達夫「それはかまいませんが、30億円は大金です。とても用意は出
来ません」

と言って富子の顔を見る。

富子うつむいて無言。

妙子が富子の肩に手を回し富子の耳元で囁く。

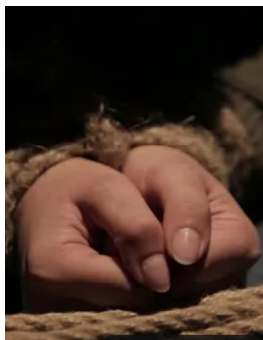
妙子「（加賀の顔を見て）大丈夫よねえお父さま？」

加賀「達夫、お前も東西Holdingoの副社長でもあり、養子とは言え加賀一族の長男だ。皆さん何とかご協力をとでも言えないのか！」

達夫の苦虫を噛み潰したような表情。

加賀「岩佐、例の写真を」

敬三が椅子に座り、両手両足をロープでぐるぐる巻きにされている。



TVがLINEの動画に変わる。

加賀竜二邸全景。

加賀の声「何だこれ?!」

加賀竜二邸全景を横にパンして↓表札↓ゆっくり横に↓高い屏

↓屏↓屏↓静止。

屏の向こうで小爆発して火災。

30秒ほど経過して消防車。

その消火作業。

加賀のスマホが鳴る。加賀がスピーカーにする。

犯人の声「爆発は小規模で植木が多少焼けただけです。但し加賀竜二宅の居間の床下には、家が全部吹っつぶ規模の爆弾がしかけられています。起爆装置を外してあります。しかし警察に知られると、貴方がたの命は無事です。が、都内の爆弾三カ所を起爆しますから、大勢の人々が容赦なく、犠牲になります。そのことを意識し冷静に行動してください」

音声が途絶える。

加賀の声「TVを切れ！」

電源が切られる。

加賀「岩佐、明日朝一番で、東西グループの緊急臨時総会をリモートで行う。議題は加賀の緊急個人融資だ」

岩佐「かしこまりました」

加賀「ああそれから、新宿にある俺名義の土地、売却相場を、ざっくりでいいから資産管理に聞いておいてくれ」

51 加賀敬三邸の前

小学生が通学している光景。

52 同居間

時計が午前時を指している。

六人が昨夜の同じ位置に座っている。

加賀と岩佐の前にノートPCが置かれてある。

加賀と岩佐が互いに耳元で小声で話す。

岩佐「この会議は、犯人に筒抜けになりますよ」

加賀「岳との合意だ」

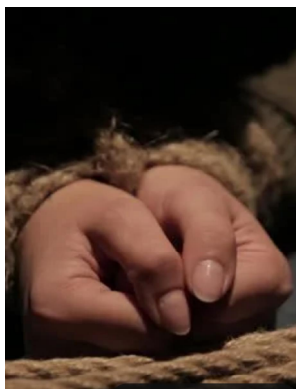
岩佐「いいんですね！」
加賀「いいんだ！やれ！」

53

リモート会議の画像

人物写真七名（70歳～80歳）下に会社名。

東西Holding・東西家電（株）東西重電（株）
（株）・東西機械（株）・東西原子力（株）・投資銀行。
TV画像に向かって



岩佐の声「総務の岩佐です。東西グループ役員の皆様、早朝よりモートの緊急臨時総会にご参加頂き、有難う御座います。東西原子力加賀敬三社長様は、拉致された本人であるため出席出来ません。代理に副社長の大塚博明様のご出席をさせて頂いております。早速ですが、加賀会長の30億円個人融資の件、ご審議を願います」

加賀の声「画像を見てくれ」

54

敬三の拉致された画像
加賀敬三が椅子に座り。両手両足をロープでぐるぐる巻きにされて

岩佐の声「東西原子力の社長加賀敬三氏が軽井沢での東西グループ50周年前夜祭に欠席したのは皆様ご存じの通りです。何故出席出来ないのかはこの写真です」

30億円融資計画案

30億円融資条件企業

融資企業先	融資金額	融資先	返済条件
東西家電	2.5億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
東西重電	2.5億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
東西電子	2.5億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
東西半導体	2.5億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
東西原子力	2.5億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
投資銀行	2.5億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
東西グループ	5.0億円	加賀敬三個人	一括返済 2023年5月末
融資金額合計	30 億円	金利年=0.2%年払い	
連帯保証人	加賀竜二個人		
担保物権	新宿増田町2-3私有地 時価=40億額		

55
リポート会議

加賀「脅迫状は、加賀富子宛てにとどいた。身の代金は30億だ。だが加賀敬三にはそんな金はない。私の土地を担保に金は用意できるが、それでは間に合わないと言ってきた。しかも警察に通報すれば都内に爆弾三カ所で爆発、多数の死傷者が出ると脅している。その警告で起爆装置の外された爆弾が我が家に床下から見つかった。とりあえず現金を何と用意したい」

東家電社長「会長、意向は理解しました。私どもに出来ることは何でもします」

岩佐「会長の意向を受けて、この融資計画案のご審議願います」

東西重電社長の声「融資先が個人では？ 取締役員にも社外役員がいますから投資銀行さんどうですか？」

投資銀行役員の声「貸し付け先が東西原子力の敬三社長がちょっと？ 拉致されてる本人ですから？ 加賀会長の個人資産である新宿の土地は40億、その土地を担保に加賀会長個人に30億融資を融資、使い道は会長の意志で自由……と言う案で如何でしょうか？」

岩佐「投資銀行様のご提案に賛同の方は、緑のボタンを押下してく

ださい」

リモート会議のモニターに全社緑のランプが点灯。
加賀が立ち上がり深く頭を下げる。」

加賀「すまん！」

ほっと安堵の空気が居間にただよう。

富子が立ち上がり深々と頭を下げる。

富子「（加賀に向かつて）有り難うございました」

岳「奥様お礼はまだ早いですよ。戦はこれからです」

富子「（涙を拭きながら）はいー」

と言ってソファーに座る。

加賀のスマホに電話のコール。

加賀が出てスピーカーにする。

加賀「加賀だが用件は何だ！」

岩佐が加賀の側に来て、加賀に目配りしてスマホを受け取る。

岩佐「岩佐と言います。30億は手配しました。これからどうすれば

いいですか？」

犯人の声「加賀敬三社長の運転手の桑原さんをこの居間に呼んでください。現金は私が指定する場所から桑原さんに運んで貰います」

岩佐「言ってる意味が分かりませんが？」

犯人の声「現金の發送先を、桑原運転手さんの住所宛てにして、宅配便のある営業所止めにして下さい。用意する車両はワゴン車で黒のカーフィルムを張った車を用意してください。万が一警察に漏れたら取引は中止です。勿論敬三さんも、他の場所に仕掛けてある爆弾も起動し、大勢の死傷者が出ます。くどいようですが念のための警告です」

岩佐「現金を宅配の営業所止とおっしゃいましたが、梱包方法の指示をお願いします」

犯人の声「段ボールでも、トランクでも、何でもかまいません？」

岩佐「途中宅配業者が紛失したらどうなりますか？」

犯人の声「それはそれでかまいません。宅配業者の紛失は当方が責任を取ります。以上です」

電話が一方向的にきれる。

岩佐「（一呼吸置いて）岳社長、犯人は30億円の札ナンの件にふれ

ません？」

加賀「海外で換金する計画だろう。もう金の奪還は不可能かもしれ
ないな」

富子「……すみません……」
と深く頭を下げる。

全員が沈黙……

54

東西家電

プレート「東西家電本社」

現金調達・タイトル五月十七日

55

同社長室

社長が不安な表情でデスクに座っている。
デスクに置かれた指がこきざまにデスクを叩いている。

55

同小部屋

家宅搜索

- 机上に札束の山（フラッシュⅡ瞬間映像）。
東西重電
机上で札束を数えている（フラッシュ）
東西機械
机上に札束を置いている男二人（フラッシュ）
東西原子力
机上に置かれたトランクに札束が詰まっている（フラッシュ）
東西 Holding
乗用車にトランクが積まれている（フラッシュ）
投資銀行
宅配便にトランクが積みれ出発する（フラッシュ）

61

敬三郎の前
子供たちが並んで通学している光景。

向こうからやってくる福永（45）と工藤（25）
福永が、長い屏越しに、立ち止まり背伸びして二階の窓を見る。

その窓、カーテンが開けられ、小さな人影。

62

敬三郎の前

工藤が、スマホと表札を見比べる。

その表札「加賀敬三・富子」とある。

遅れてきた福永がインターホンの前に工藤と並ぶ。

二人が顔を見あわす。

福永が「お前が押せ」の仕草。押す。

応答が無い。しばらく待って押す。

さらに押すが応答がない。

工藤「留守ですかねえ」

奥を覗く。

福永がさらに乱暴に叩く。

富子の声「うるさい！ 警察呼ぶはよ！」

工藤「警察です。お尋ねしたいことがあります？」

富子の声「だったら警察手帳見せなさいよ」

工藤がインターホンのカメラに向かって警察手帳をかざし工藤です「同じ動作で「福永です」

門が自動で開く。

福永と工藤が顔を見合わせ中に入る。

その後ろ、自動で門が閉まる。

二人が振り返って、自動閉鎖する門を見る。

歩きながら

工藤「こんな豪邸に住んでみたいもんですねえ」

福永「夢でも無理だな」

工藤「何故ですか？」

福永「下っぱの刑事の夢は、せいぜい犯人逮捕の夢ぐらいだな」

工藤「夢は自由ですから」

福永「（歩きを止めて）刑事稼業は足軽だ、金にならない槍かつぎつてっな！」

と言って歩き出す。

慌てて追って肩を並べ

工藤「そんなこと、誰が言ったんですか？」

福永「俺だよ！」

63 同玄関

二人が来て工藤がドアのブザーを押す。

富子の声「どうぞ」

二人「失礼します」と中に入る。

64 玄関の中

二人が中に入って立派な玄関を見回す。

しばらくして、富子が胸をあらわにして、ブラウスで、ワイングラス片手に少し酔っている様子で出てくる。

富子「（自分でその格好に気づき）あら私ったら失礼よねえ。朝から

こんな格好で……ちよっとお待ちになつて」

と、引っ込んでガウンを羽織って一枚の紙を持って出てくる。

富子「で、何のご用？」

改めて警察手帳を見せ「福永です」「工藤です」という。

富子「もっとはっきり見せてよ」

工藤が鼻先に突きつける。

富子「工藤海斗、歳は？」

工藤「警察の秘密！」

富子「それを言うなら企業秘密でしょ（福永に）貴男は？」

福永「福永剛歳は45歳。ご納得ですか？」

富子が二人の前にの紙をだす。

その紙

町内会のお知らせ。「電力会社の名刺・調査会社の名刺・銀行の名刺・警察官で警察手帳を見せて訪問する者・怪しいと思われる110番か最寄りの警察へ」

富子「私服で警察手帳、あなた方二人はこのチラシにピッタリよ。

交番に電話しますよ。かまいませんか？」

工藤「奥さん、用心されるのは分かります。このご時世ですから（警察手帳を見せ）この通り本物です」

富子「もっとよく見せて」

と、言っ取ろうとした。

工藤「これは渡せません。見ることはかまいません。納得のいくま

で見てください」

富子「そんなもののレプリカでも売ってるそうよ」

福永「奥さん警察がお嫌いですか？」

富子「そうよ！ 大嫌いよ！」

福永「私たち二人は、警視庁刑事部捜査四課に所属する刑事です。

信用して頂けませんか？」

富子「……」

福永「それでも信用出来ないっておっしゃるんですけどら110番に電話して、警視庁刑事部捜査四課に所属する福永と工藤と名乗る偽警官がいます。至急来て下さい！と電話すればパトカーはすぐ来ますよ。もし本物の警官であっても、電話したあなたは罪に問われませんから。どうされます？」

富子「分かったは信用しましょう。で、用事ってなあに？」

福永「奥様のお名前は加賀富子、お父上は東西Holdingの会長の加賀竜二さんですよね」

富子「そうですが、それが何か？」

工藤「昨夜その会長さん宅にボヤがあったことはご存じですよね？」

富子「母からの電話で知りました」

福永「その事情を、会長の加賀竜二さんにお聞きしようと思いましたが、ご自宅にも会社にいらっしゃらないようで……奥様のご主人敬三さんは、ご自宅にいらっしゃいますか？」

富子「いらっしゃいませんよ……」

福永「会社にもいらっしゃいませんでした」

富子「そうですか？ 会社にもいらっしゃいませんでしたか？」

福永「奥さん！ ふざけてないで真面目にお答え願いませんか！」

富子「真面目にお答えしてますよ！ 秘書の方から電話がありました

た。夫は五月十一日の東西グループ50周年パーティーの出席予定

から帰って来ていません。会長もまたか！ と怒っていました。

社長はもう首だ！ お前からそう言っとけ！ と、言われました。

私も父からそう言われて踏ん切りがつかしました。夫とは離婚しま

す。夫が帰宅するのは週一か週二ですから。そのうち帰って来ま

す。何の心配もしていません。お話はそれだけですか？」

工藤「ご心配されないんですか？」

富子「うちの旦那は女性が大好きな資質ですから、妾、娼婦？ 表

現が昭和的ですよ。キャバクラ、倶楽部の遊び好きであてにしています。夫婦仲はとくに茶碗の割れです」

工藤「それ？　どういう意味です？」

富子「修復出来ないという意味。警察官たる者そんなことも分からないの」

工藤「分かりませんよ。僕は独身ですから」

福永「そうですか？　茶碗の割れですか？　で、その先は離婚？

ですか？」

富子「その通りです」

工藤「旦那様じゃない事は分かりました。しかし、一度お屋敷の中を確認させて貰えませんか？」

富子「何の容疑かしら？　主人がいて、主人のいることを隠している？　居留守を使っているってことですか？　主人がいくら馬鹿亭主だったとしても、犯罪も犯してない亭主を探すのに、何で家宅搜索されないといけないんでしょ！　家宅搜索するには法的な手続きがあるでしょう！　江戸弁でお答えします。「おととい来やがれ！」意味知ってますか？　二度とくるな！　という意味です。お帰り下さい」

福永と工藤があきれ顔。

65

同加賀敬三邸の門
福永と工藤が歩いて門外に。
門が自動で閉まる。

二人が振り返り邸内を見る。

工藤

「なんていう女だ！ 悪妻の見本ですね！」

福永

「悪妻ならず良妻だな？ 何か隠して悪妻のふりしてる」

工藤

「……」

工藤の理解しがたい顔？

66

東都宅配営業所（夜）

東都宅配世田谷営業所の旗が、風でゆれている。

67

同営業所内

大きな台車が二台。中の積まれているトランクが網に包まれている。

その網に紙が貼られている。

桑原進様・営業所止め止。

68 警視庁ビル（夜）

69 同捜査四課

大きなモニター。その前に長形のテーブルを囲んで六人。蓮見（40・小松（45）馬場（30）浅川（26）福永と工藤がいる。タイトル..五月十八日

蓮見「福永巡査部長長説明してくれ」
福永「経過報告です。工藤頼む」

工藤が机上のタブレットを取り上げる。
モニター画像

① 消息不明日..五月十一日（金）

写真・加賀敬三社長東西原子力社長

② 消息不明日..五月十五日（木）

写真・加賀竜二会長東西 Holding

写真・加賀達夫副社長東西原子

写真・加賀妙子監査役東取締役

写真・岩佐太司総務部長東西 Holding

× ×

福永「管理官殿、もし加賀家が何らかの事情で脅されているとすれば、都内の三カ所に置かれている爆弾の捜査と消息不明の捜査を並行して実施すべきとおもいますが？ 私を加賀敬三宅の富子夫人宅に再度訪問させて下さい。失踪に届けを提出させます」

馬場「私は爆弾の捜査が優先だと思っています」

福永「浅川どう思う？」

浅川「私は蓮見管理官の指示に従います。警察は組織ですから」

福永「（浅川を無視して）加賀邸にタイムマーのない本物の爆弾を仕掛

けた。理由は脅しとは考えられませんか」

蓮見「駄目だ！ 優先順位は爆弾だ」

福永「じゃあ単独で動きます」

工藤が福永の腕を引っ張り福永の顔を見て「よしよししよう」という表情。



突然ノックもせず鑑識の腕章を付けた男と、手には丸い巻いた紙を持った男が、プラスチックの箱を、持って飛び込んで来た。男「(地図を机上に広げ)管理官この地図を見てください」利根川と鳥川の合流地点・中州メモリーとUSBが置かれる。

その地図は航空写真

蓮見「何だこの画像は?!」

男「犯人から送られてきた爆弾の設置所です。この場所は利根川に合流する鳥川の中州で、川幅は直線で約2km。中心に爆弾が置かれて

蓮見「加賀竜二宅の爆弾と同じか?」

男「男がプラスチック箱の中から爆弾を取りだし机上に置く。」

蓮見「これと同じものだと思われまます」

男「加賀竜二邸のように警告でしょうか? しかしこれは本当に爆発予告のようです」

写真が動画に変化する。

ドローン二機が空中でホバーリング。その地点、利根川と鳥川の中州。その中州がズームされ大きくなって、その中州に一人の人物。その人物が手で大きくドローン向かって丸を作り去ってゆく。さらにズームして爆弾の画像。ズームして起爆タイマ

1の数字。

0 0 2 0 ↓ 0 0 0 0 になり爆発して炎が静止画像になる。

犯人の声「この動画の爆発はAIで加工してあります。実際爆発は五月十日23時00分です。爆弾の規模は火薬は400kg。威力は半径0.5km以内です。川幅1kmで人家ありません。身の金30億円の誘拐作業を実行中です。現金輸送は勿論車両で、我々は特殊なGPSを搭載したワゴン車を準備しています。そちらもそちらで距離の計測をおこない2km以内に接近しないで下さい。km以内に接近すれば30億円の受領は断念。代償として都内三カ所に設置してある爆弾を警告無しに起爆させます。警告は以上です」

モニターに次の文字

警告・加賀邸の爆弾

警告・利根川河川敷の爆発

実行・都内三カ所の爆発

蓮見「課長、このUSBの画像を副総裁付きの三浦管理官に転送して埼玉県警と群馬県警に対応してもらってくれ。俺は現地で合流する」

70

加賀敬三郎の居間

山積みになっているトランク。

そのトランクを中心に輪になって立っている。

運転手桑原が加わった七人加賀・達夫・妙子・岩佐・富子・岳。

突然岩佐のスマホが鳴る。

岩佐が全員に目配りしてスマホを出しスピーカーにする。

犯人の声「やっと工程四分の二迄無事に来ました」

岩佐「どういう意味ですか？」

犯人の声「身柄確保・現金調達・搬送・受領が私たちが計画した四工程です」

岩佐「このトランクの山を、どうすればいいのでしょうか？」

犯人の声「まず10分後に宅配便が現金輸送用のトランクを運んで来ます。そのトランクに現金を入れ替えるために、まずこのトランクの中の現金を床に出してください。急いで時間は10分です。又

電話します」

加賀「指示通りにやれ……」

トランクから出される現金が山積みされる。

門のインターホンが鳴って、富子がそれに応じて画像を見る。

「宅配便です」の声と画像

富子「どうぞ玄関で受け取りますから車寄せでお入りください」

71 玄関

富子と竜二を除く六人が車を待っている。

車が停車。運転手が下車して後部扉を開け荷台に上る。

岳「私たちが手渡しで運びます」

運転手「申し訳ありません。助かります」

トランクが六人の手渡しで運び込まれ、宅配便の車を見送る。

達夫「やれやれ……これからどうなることやら……30億円か？」

妙子「そうね……30億円よ……」

そういいながら家の中に引き上げる五人。

富子だけが宅配便が去って車両の行く方向をぼんやり眺めている。それに気づいた岩佐が立ち止まる。

富子の側に寄り添う。

富子の寂しそうな表情……。

富子「（前を向いたまま）何故？ 夫の敬三さんだったんでしょう

か？」

岩佐「……」

富子の顔を気の毒そうに見る。

72 同居間

岩佐のスマホが鳴る。取り出してスピーカーにする。

犯人の声「誘拐犯です」

岩佐「分かっています」

犯人の声「あなた方の努力のおかげで、この誘拐事件は今のところ警察には漏れていないようで、約束を守って頂き感謝しています」

岩佐「あなたは現金の調達が四分の二に第二工程とおっしゃいました。敬三社長の無事が心配になってきました。この時点で無事を

確認したいのですが」

犯人の声「それは信賴していただくしかないでしょう。しかし、警察は必ずこの誘拐事件を知って捜査本部を設置、現金運搬車を追跡してきます。そこにいらっしゃる加賀竜二会長さん宅に爆弾を仕掛けたのも、現金調達までの目眩ましです。それに第二の目眩ましを、警察に仕掛けました。利根川の河川敷です。人の被害の無い場所です。しかし火薬は少量です、実際に爆発します。それが第二の警告です。第三の警告はありません。その証拠は何れ分かりますが、前にも申し上げました。警察にはこちらから連絡します。門と玄関の鍵は絶対千錠しないで下さい。二人の警察官がこの居間を訪れます」

岩佐「どういう意味ですか？　もしもし！」

犯人の声「繰り返します道路沿いの門と玄関の鍵は絶対にかけないでください。絶対ですよ！」

通話が切れる。
岩佐の怪訝な表情？

73

加賀敬三郎の監視カメラ
二人の警官が表札を確かめながら門から邸内にやってくる。

74

同居間

札束の山。

それを囲んでいる七人（竜二・達夫・妙子・岩佐・富子・岳

・桑原）

玄関のチャイムが鳴る。

富子が居間を出る。

75

同玄関

富子が来てドアを開ける

富子「どうぞ」

巡查A Bの二人がいる。

巡查A「泥棒が入ったので来て欲しいという、電話をご主人からもらいました。ご主人いらっしゃいますか？」

富子「ええ、まあ」

巡查B「奥様からお話をお聞きしてもかまいませんが、電話下さっ

富子「たのはご主人ですから、直接お話しを？」
富子「どうぞお上がりさい（スリッパを出しながら）主人は居間に
いますから」

巡查 A B が富子の後につづく。

76

居間の扉の前

富子が扉の前で立ちだまり躊躇する。

怪訝そうに顔を見合わす巡查二人。

富子が扉を開ける。

77

同居間

巡查 A B が入って来て札束の山を見て啞然として声も出ない。

岩佐のスマホが鳴って耳に当てる。

スピーカーにする。

犯人の声「巡查の方に、階級が上の方に替わってください」

岩佐「お二人の階級が上の方は？」

巡查 A「私ですが」

犯人の声「岩佐さん、スピーカーカーをOFにして階級が上の方にこのスマホを渡してください。もう一人の巡査の方が、警察に連絡をしようとしたら、実力で阻止して下さい」

岩佐がスピーカーカーをOFにして、巡査Aにスマホを渡す。

巡査Aが深刻な表情で聞いている。

巡査Aが持っているスマホに巡査Bが耳を近づける。

タイトル・五月十九日午後十時。

78

利根川と鳥川の合流地点
川幅kmの両岸に消防車・パトカー赤色灯を回転させながら停車
している。

中央の中州に両岸から爆弾にサーチライト。

その爆弾の時刻が22..30..45秒

79

加賀敬三邸居間

運転手を含む七人がトランクに30億の金をせっせと詰めている。
それを見つめる巡査A。

巡查Bがその光景を、スマホで撮っている。
加賀竜二がソファに座って悠然と見ている。

富子

「お巡りさん、手伝ってください」

巡查A「我々は新聞紙の札束が無いから見張れと言われています。一切手を貸すな。手を貸せばこの居間の床下に置かれている爆弾を起動すると脅されています」

80

利根川と鳥川の合流地点

爆弾の時刻 22 .. 45 .. 46 が音を刻み進む。

81

加賀敬三邸居間

最後の札束をトランクに収める岩佐。

最後の一個がトランクに収められる。

山積みされているトランク。

岩佐のスマホが鳴る。

岩佐が取ってスピーカーにする。

犯人の声「このトランクを十一時までに桑原さんが運転するワゴン

車にリレー式で積み込み、スマホは切らないでください」

岳 「加賀会長、このトランクを積みます……いいですね！」
と、言って目を見る。

それを岩佐が気づく。

岩佐 「（独白）今さら何だ！」

加賀 「誰かが言ってたな『命は地球より重い』早く運んでくれ」

岩佐が、岳と加賀やり取りを怪訝な視線それとなく見る。

岳 が、再度加賀の目をじっと見つめる。

「矢は放たれた、急げ！」

懸命にトランクを手渡しで運ぶ。

82 居間の時計

時計が22時59分を指す（フラッシュ） Ⅱ 瞬間画像

83 利根川と鳥川の合流地点

30億円・追跡

84 警察管理車両内
複数人が警官が慌ただしい。



爆 23 爆
発 .. 弾
! 59 の
.. 時
55 刻
↓
00
..
00
..
00

その中に蓮見がいる。
スマホが鳴って取り上げる。

蓮見「（爆発の炎を見ながら）今それどころじゃ無いんだ。何?!
身の代金30億の誘拐現場に警官だど！」

85 警視庁通信司令部

大勢の人々がモニターに向かっている。

86 そのモニターの画像

ワゴン車を運転する桑畑

87 警察ワゴン・車内通信指令室

蓮見と数人がモニターの前。

モニターの画像

桑原が運転する車の写真。
それが練馬330ほ64196に変わる。

蓮見マイクに向かう。

蓮見「全車に告ぐ、車両NO練馬330は64196に変わった。この車両番号は自動的に変わる要素がある、変化を。確認したら直ちに報告。運転手桑原の写真を重視して追尾せよ！システムでリアルタイムで追っている。当該車両にはGPS発信は無い。したがって上空のヘリの電波照査で位置で確認しろ。確認を怠って、該当車両との距離km以内には絶対に入るな。入れば都内の何処かに仕掛けられている爆弾が爆発する。心してかれ！」

88

環状七号線（深夜）

七号線を桑原の運転する黒のワゴン。

89

同環状七号線

その上空ヘリが赤ランプを点滅しながら飛んでいる。

ヘリの声「ターゲットは時速50km。環七大森東交差点を左折、国道号線で都心方向に進行中、その先首都高速号線あり」

蓮見の声「了解！現在2kmの距離を置いて追尾中、裏道の併走車両、2kmを目処に先行しろ」

90 併走車両
併走車両の声「ターゲット車両の行き先が不明。併走するしかない
ません」
蓮見の声「何でもいいから裏道で先行しろ」

91 首都高速
首都高速を走行する桑原のワゴン車（俯瞰）

92 同首都高速
走る桑原のゴン車の後部。

93 同首都高速
Nシステムカメラの下を走行する。
桑原のワゴン車（俯瞰）

94 ワゴン車の運転席
ハンドルを握る緊張している桑原の顔。

95

常磐道三郷インターチェンジ
カーブを曲がる桑原のワゴン車。
ヘリローターの回転音。

操縦士の声「ターゲットは常磐道三郷JCT（インターチェンジ）
を進入。」

96

常磐道守谷SA2Km
その下を桑原の運転するワゴン車と上空のヘリ。

97

谷田部東PASA2Km
桑原の運転するワゴン車の俯瞰。

98

千代田PASA2Km
フロントガラス越しに桑原の緊張した顔。
上空を飛行するヘリ。

99

友部SA2Km（俯瞰）

友部SA表示の路肩に停車する桑原のワゴン車。
その上空にドローン。その上空にヘリ。

100

同友部SA Km

桑原のワゴン車より後方2 Km手前の警察通信指令車が停車している。

101

同車内

モニターに、ターゲット車両の俯瞰。

そのモニターを見つめる蓮見。

突然蓮見のスマホが鳴って取り上げる。

スマホ画面“非通知”首をかしげてタッチする。

蓮見「蓮見だが？」

犯人の声「この一連の事件の主犯です」

蓮見が慌てて発信元を調べるの仕草。

犯人の声「この電話の発信元は突き止められませんよ。私はそんなへまはしませんから。お願いがあります。の通話は上空のヘリと共有してください。私どもの監視ドローンと接触する恐れがあります。接触すればC4火薬0.5Kg搭載していますから、ヘリは落下

しますよ。このへりをへりポートに戻してください。この提案をご承認いただければ、へりに体当たりして、都内にある三カ所の爆弾を起爆させてこの作戦を修了させます。30億の現金は諦めます。承認されたらへりの赤色灯を30秒間消してください」

102 友部SA2Km（俯瞰）

路肩に停車するワゴン車。その上空にドローン。その上空のへり、赤色灯が消えて30秒……再び点滅してへりが去って行く。

103 蓮見 常磐道・通信指令車の車内

「これで満足か！」
電話の声が応答しない。

104 同友部SA2Km（俯瞰）

その時大型トラックが、現金を積んだ桑原のワゴン車の前に停止。その前に二台のワゴン車。

クラクションが鳴りバックミラーを見ると後方にも大型トラック。その後方にも二台のワゴン車。
犯人の声「GO!です」

105 常磐道友部SA駐車場内（俯瞰）
数台の車両が点在している。

106 同駐車場
一台小型ワゴン車「
東都新聞神田支局」の文字。

107 同車両の運転席
運転席に笠井重雄（6歳）がカメラを横に置き、助手席に安藤有子（26歳）が睡眠。
26

108 常磐道友部SA進入路（俯瞰）

① 桑原の前のワゴン車二台が、SAの進口から本線の路肩に停車。
運転手が下車してSAの駐車場に駆け込む。
② 後部ランプを点滅させ大型トラックが一台、その後方に栗原の
運転する現金輸送車が、栗原が下車して、男二人に麻酔を嗅が



30 億円強奪の犯人が、友部SAを八台の
車両で封鎖した。



爆破・火災・常磐道下り友部SE

され駐車場に止めてある乗用車に監禁された
③ 現金輸送車の後方に大型トラック、その後方のワゴン車二台。
三人が下車してSEの駐車場まで走って逃げた。

109

同友部SA友部駐車場

車を放置して逃げてきた六人が、待機していたワゴン車に乗り込み駐車場を後に走りさり去った。

同友部SA友部SA駐車場

110

路肩に止めた合った二台のワゴンと車が突然爆発。
侵入路後部に大型トラックとワゴン車二台も爆発。

SA侵入路左側の森も爆破炎上。進入路は完全封鎖された。

上空にはドローンがホバーリング。

ドローンの拡声機から呼びかける。

警察車両多数・消防車複数台・道路管理車両・等々、友部SEは完全に封鎖された。

拡声器の声「友部SAで爆発！ 危険です。テロの可能性！ 直ちに

逃げてください！ 下り車線は安心です。繰り返します。友部SAで爆発！ 危険です！ テロの可能性もあります。直ちに逃

げてください！ 下り車線は安心です」

何度も繰り返される。

111

友部S田駐車場

笠井のワゴン車の中。

爆発音がして有子がビックリして飛び起きる。

ドアを開けて外を見る。

火の手が上がっている。

驚いて運転席のドア開け、熟睡している笠井を叩き起こす。

有子「笠井君起きで！ 起きて！ 事件よ！ カメラ！ カメラ」

112

常磐道友部S田（俯瞰）

黒煙で曇る下り線。

消防車・パトカー・等々の車両で下り線が封鎖！

身代金30億円は、友部S田から完全に消えた。

タイトル「2021年令和三年五月二十日・午前0時30分」

鑑識の男	近藤刑事	福永刑事	蓮見管理官	並木伸子	犯人声	岳京介	加賀敬三	加賀富子	加賀妙子	加賀達夫	加賀竜二	山岸志津	岩佐太司	登場人物
巡査・運転手・その他	(25)	(45)	(50)	(40)		(70)	(40)	(30)	(60)	(70)	(40)	(22)	(26)	
											{60}	{56}	{60}	

第一章 悲しい再会 完

